

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 5 部門第 1 区分
 【発行日】令和 1 年 11 月 14 日 (2019.11.14)

【公表番号】特表 2017-527736 (P2017-527736A)
 【公表日】平成 29 年 9 月 21 日 (2017.9.21)
 【年通号数】公開・登録公報 2017-036
 【出願番号】特願 2017-512793 (P2017-512793)
 【国際特許分類】

F 0 4 D 29/56 (2006.01)

F 0 2 C 9/22 (2006.01)

F 1 6 H 21/14 (2006.01)

【F I】

F 0 4 D 29/56 C

F 0 2 C 9/22 A

F 1 6 H 21/14

【誤訳訂正書】
 【提出日】令和 1 年 10 月 4 日 (2019.10.4)
 【誤訳訂正 1】
 【訂正対象書類名】明細書
 【訂正対象項目名】0 0 1 2
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【0 0 1 2】

好ましくは、第 2 の調節部材と関連するギア段は、駆動輪に噛み合わされる第 1 の歯車と、第 2 の調節部材の歯付き部分に噛み合わされる第 2 の歯車と、ギア段の速度伝達比を変化させるように両方の歯車を互いにかからませるためのカップリング手段とを含む。

【誤訳訂正 2】
 【訂正対象書類名】明細書
 【訂正対象項目名】0 0 3 5
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【0 0 3 5】

このカップリング手段は、この場合、溝 4 0 にあり、その各々のトラッキングフィンガ 4 2 アセンブリは、第 1 および第 2 の歯車 3 2、3 4 のいずれかによってそれぞれ担持される。

【誤訳訂正 3】
 【訂正対象書類名】特許請求の範囲
 【訂正対象項目名】全文
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

第 1 のターボ機械スプリッタ段 (1 6) のブレード (1 4) の向きを調節するための第 1 の調節部材 (1 2) と、第 2 のターボ機械スプリッタ段 (2 2) のブレード (2 0) の向きを調節するための第 2 の調節部材 (1 8) とを駆動するための駆動機構 (1 0) にして、ターボ機械の中で両方の調節部材 (1 2、1 8) を同時に駆動して移動させるための手段を含む駆動機構 (1 0) であって、

第 1 の調節部材 (1 2) および第 2 の調節部材 (1 8) を同時に駆動する単一の駆動輪

(2 4) を含み、駆動輪 (2 4) と第 1 の調節部材 (1 2) および第 2 の調節部材 (1 8) のいずれかとの間に配置され、異なる速度伝達比を有する 2 つのギア段 (2 6 、 2 8) を含むことを特徴とする、駆動機構 (1 0) 。

【請求項 2】

第 2 の調節部材 (1 8) と関連するギア段 (2 8) の速度伝達比が、ターボ機械の中で駆動輪 (2 4) の角度位置に応じて変化することを特徴とする、請求項 1 に記載の駆動機構 (1 0) 。

【請求項 3】

第 2 の調節部材 (1 8) と関連するギア段 (2 8) が、駆動輪 (2 4) に噛み合わされる第 1 の歯車 (3 2) と、第 2 の調節部材 (1 8) の歯付き部分 (4 4) に噛み合わされる第 2 の歯車 (3 4) と、ギア段 (2 8) の速度伝達比を変化させるように両方の歯車 (3 2 、 3 4) を互いにかからませるためのカップリング手段 (4 0 、 4 2) とを含むことを特徴とする、請求項 2 に記載の駆動機構 (1 0) 。

【請求項 4】

第 2 の調節部材 (1 8) と関連するギア段 (2 8) が、ギア段 (2 8) の速度伝達比を非線形に変化させるように作られることを特徴とする、請求項 3 に記載の駆動機構 (1 0) 。

【請求項 5】

第 2 の調節部材 (1 8) と関連するギア段 (2 8) の両方の歯車 (3 2 、 3 4) の回転軸 (3 6 、 3 8) が、互いに関して平行であり、オフセットされることを特徴とする、請求項 4 に記載の駆動機構 (1 0) 。

【請求項 6】

両方の歯車のうちの一方 (3 2) が、溝 (4 0) を含み、他方の歯車 (3 4) が、前記他の歯車 (3 4) から軸線方向に突出するフィンガ (4 2) を含み、フィンガ (4 2) が、溝 (4 0) に収容され、第 1 の歯車 (3 2) から第 2 の歯車 (3 4) にトルクを伝達するように溝 (4 0) と協働することができることを特徴とする、請求項 5 に記載の駆動機構 (1 0) 。

【請求項 7】

溝 (4 0) が、第 1 の歯車 (3 2) に形成され、フィンガ (4 2) が、第 2 の歯車 (3 4) によって担持されることを特徴とする、請求項 6 に記載の駆動機構 (1 0) 。

【請求項 8】

第 1 の調節部材 (1 2) と関連するギア段 (2 6) が、駆動輪 (2 4) に噛み合わされる第 3 の歯車 (3 0) と、第 1 の調節部材 (1 2) の相補的な歯付き部分 (4 4) とを含むことを特徴とする、請求項 1 から 7 のいずれかに記載の駆動機構 (1 0) 。

【請求項 9】

各スプリッタ段が、前記スプリッタ段 (1 6 、 2 2) のブレード (1 4 、 2 0) の向きを調節するための調節部材 (1 2 、 1 8) を含み、両方の調節部材 (1 2 、 1 8) が、ターボ機械の主軸の周りにターボ機械の中で回転自在に可動であり、請求項 1 から 8 のいずれかに記載の駆動機構 (1 0) によって回転自在に駆動されることを特徴とする、前記ブレード (1 4 、 2 0) の向きが変更され得る 2 つのスプリッタ段 (1 6 、 2 2) を含む、航空機ターボ機械。

【請求項 10】

各調節部材 (1 2 、 1 8) が、これらに関連するギア段 (2 6 、 2 8) と関連する第 1 の歯付き部分 (4 4) と、これらに関連するスプリッタ段 (1 6 、 2 2) の各ブレード (1 4 、 2 0) によって担持される歯車と噛み合う第 2 の歯付き部分とを含むことを特徴とする、請求項 9 に記載のターボ機械。